保育実践の内実にどう触れるか
―児童学からのアプローチ―

日本家政学会児童学部会　公開シンポジウム

どなたでもご参加いただけます
対面×Zoom
参加費無料

日　時
2024年10月6日（日）
13:30～15:00（開場13:00）

場　所
お茶の水女子大学　本館128室

和洋女子大学　田代和美

人と人とがつながり
あえる知と身体
―保育・身体・中動態―

共立女子大学　守随香

幼稚園だいすき
―子どもの園生活と育ち―

司会　　お茶の水女子大学　西　隆太朗

保育理解を深める上では、研究者と実践者の協働が重要な課題となっています。
本シンポジウムではこれからの新しい保育研究のあり方について考えます。

申し込みはこちら

お問い合わせ　jidougaku@gmail.com
日本家政学会児童学部会

会場アクセス

保育実践の内実にどう触れるか
―児童学からのアプローチ―

日本家政学会児童学部会　公開シンポジウム

企画趣旨：保育理解を深める上では、研究者と実践者の協働が重要な課題となっています。2023年、こうした取り組みに基づく著書が刊行されました（田代和美『人と人とがつながりあえる知と身体―保育・身体・中動態』子どもの未来社、守隨香『幼稚園だいすき―子どもの園生活と育ち』ななみ書房）。二人の著者は、児童学部会の会員でもあります。本シンポジウムではご著書にまつわるお話を伺い、これからの新しい保育研究のあり方について考えます。

講師：田代和美

筑波大学大学院博士課程心身障害学研究科修了(教育学博士)。お茶の水女子大学家政学部児童学科、生活科学部発達臨床学講座、発達臨床心理学講座、大妻女子大学家政学部児童学科を経て、現在、和洋女子大学人文学部こども発達学科教授。お茶の水女子大学在職中に附属幼稚園の保育者との保育カンファレンスを経験した後、千代田区、新宿区での保育巡回相談を約20年行ってきた。

保育の場に伺って、保育者と一緒に子どものことを話し合ってきた中で、私は、子どもの立場に立とうとする保育者の不思議な語り方と変容する子どもの姿に度々出あってきた。そしてそれが何を意味するのかを、その時々に方法論も手探り状態で考えてきた。省察を重ねる中での保育者の語り方と子どもと保育者の間身体性について。それぞれについて考えてきたことがつながって書けた小さな本の中身を、実践の場で出あうことから始まる研究の一例としてお話したい。

講師：守隨香

お茶の水女子大学人間文化研究科人間発達学専攻単位取得退学(博士生活科学)。東京家政大学家政学部児童学科、千葉経済大学短期大学部こども学科を経て現在は共立女子大学家政学部児童学科教授。お茶の水女子大学在学中より保育観察と保育者の語りの聴き取りを行ってきた。保育者の省察と語りに関心があり、保育界で自明視されていることに問いを立てる研究を心がけている。現在、船橋市、千葉市の私立幼稚園及び保育園で保育指導を行っている。

拙稿では、観察者の限界を感じるに至った経緯と保育者の技の瞬間を捉えようともがいた私のプロセスを著した。観察で「見える」ことだけで保育の真実を了解できるわけではないことを思い知った経験から始めた「聴き取り」という方法論について、また聴き取りによって「みえてくる」保育者の子どもを理解しようとする省察のありようについてお話しようと考えている。

日　時

2024年 10月6日(日)

13:30～15:00

対面×Zoom

参加費無料

司会　　お茶の水女子大学　西　隆太朗

場　所　お茶の水女子大学　本館128室

お申し込みはこちら
どなたでもご参加いただけます

会場
アクセス

日本家政学会児童学部会
jidougaku@gmail.com